

<http://jensd.be/?p=125>

MATE は GNOME2 の派生。

## Epel のインストール

```
sudo yum install epel-release
```

## MATE のインストール

```
sudo yum groupinstall "MATE Desktop"
```

## MATE の設定

### ~/.config/dconf/user ファイル

MATE や GNOME の設定は ~/.config/dconf/user に全て保存されている。  
設定を失敗した時のために、このファイルをバックアップしておくが良い。

#### 編集

```
dconf-editor
```

で編集できる。  
値の追加を行う場合は、dconf コマンドを使う。  
基本的に値の削除はできない。その場合は

```
dconf dump
```

でテキストファイルに設定値を書きだして編集し、~/.config/dconf/user を削除した上で

```
dconf load
```

で設定値をロードする。

### top パネルと bottom パネルの設定

#### アニメーションに関する設定

自動的に隠す場合の反応速度を 0 にして、アニメーション効果を無くす。

```
dconf write /org/mate/panel/toplevels/top/enable-animations false
dconf write /org/mate/panel/toplevels/top/unhide-delay 0
dconf write /org/mate/panel/toplevels/top/hide-delay 0
```

環境によっては

```
dconf write /org/mate/panel/toplevels/toplevel-0/enable-animations false
dconf write /org/mate/panel/toplevels/toplevel-0/unhide-delay 0
dconf write /org/mate/panel/toplevels/toplevel-0/hide-delay 0
```

```
dconf write /org/mate/panel/toplevels/bottom/enable-animations false
dconf write /org/mate/panel/toplevels/bottom/unhide-delay 0
dconf write /org/mate/panel/toplevels/bottom/hide-delay 0
```

## 上パネル

- ・通知領域
- ・時計

## 下パネル

- ・スタートメニュー（設定でキーバインドが設定出来る場合に、mod4（Windows キー）が設定されていたら削除する）
- ・ウィンドウ一覧
- ・ゴミ箱
- ・ワークスペース

## デスクトップのアイコン

<http://x1japan.wordpress.com/2013/04/22/linux-mint-mate1-6-desktopico/>

### 1.dconf-editor を起動する

1. org -> mate -> caja -> desktop を開く
2. xxxxx-icon-visible を変更することでデスクトップのアイコンを非表示できる

## ホーム以下の日本語ディレクトリを英語にする

```
LANG=C xdg-user-dirs-gtk-update
```

## サスペンドとハイバネーションのボタンを消す

```
/etc/polkit-1/localauthority/90-mandatory.d/disable-suspend.pkla
```

```
[Disable suspend (upower)]
Identity=unix-user:*
Action=org.freedesktop.upower.suspend
ResultActive=no
ResultInactive=no
ResultAny=no

[Disable suspend (logind)]
Identity=unix-user:*
Action=org.freedesktop.login1.suspend
ResultActive=no

[Disable suspend for all sessions (logind)]
Identity=unix-user:*
Action=org.freedesktop.login1.suspend-multiple-sessions
ResultActive=no
```

```
/etc/polkit-1/localauthority/90-mandatory.d/disable-hibernate.pkla
```

```
[Disable hibernate (upower)]
Identity=unix-user:*
Action=org.freedesktop.upower.hibernate
ResultActive=no
ResultInactive=no
ResultAny=no

[Disable hibernate (logind)]
Identity=unix-user:*
Action=org.freedesktop.login1.hibernate
ResultActive=no
```

```
[Disable hibernate for all sessions (logind)]
Identity=unix-user:*
Action=org.freedesktop.login1.hibernate-multiple-sessions
ResultActive=no
```

## フォントサイズ

1. コントロールセンター
2. 外観の設定
3. フォントタブ
4. フォントを大きくするか詳細を選択して、解像度を変更する
5. 解像度のデフォルト値は 96

## 他のワークスペースのウィンドウに切り替えるショートカット

ショートカットの設定で設定できないショートカットを設定するには

```
dconf-editor
```

で

```
org.mate.Marco.global-keybindings
```

以下の設定を変更する。

例えば、他のワークスペースのウィンドウに切り替えるショートカットは

```
switch-windows-all
```

の設定を変更する。

## キーボードのキーの入替えなどの設定をする

キーボード設定のレイアウトからオプションを選択すると caps の入替えなどキーの設定を変更できる

### 注意

```
shift + comma
```

を含むショートカットを設定すると「<」が不正文字として扱われてしまい正常にショートカットが動作しない。

対策として、autokey や xbindkeys でショートカットを受け取ってやりたい動作実行する

例

```
Mod4 + Shift + comma
```

でアクティブウィンドウを仮想デスクトップ 8 へ移動する

xbindkey を使う場合

vim ~/.xbindkeysrc

```
"xdotool set_desktop_for_window $(xdotool getactivewindow) 7"  
Shift + Mod4 + comma
```

autokey を使う場合

```
system.exec_command('xdotool set_desktop_for_window $(xdotool getactivewindow) 7',getOutput=False)
```

## ファイルマネージャの設定

1. サイドペイン
  1. ツリー表示
2. 編集 -> 設定
  1. 新しいフォルダの表示形式
    1. 一覧表示

## スクリーンショット

標準は Windows と同じ。

キー	実行されているコマンド	スクリーンショットの範囲
print キー	mate-screenshot	画面全体
Alt + print キー	mate-screenshot --window	アクティブなウインドウ

### 範囲指定でスクリーンショットを撮る

```
mate-screenshot --area
```

を実行することで範囲指定でスクリーンショットを撮れる。

ショートカットを指定する場合は、

dconf-editor

[org.mate.Marco/keybinding-commands/command-screenshot/mate-window-screenshot](https://org.mate.Marco/keybinding-commands/command-screenshot/mate-window-screenshot)

のコマンドを

```
mate-screenshot --area
```

にするか、新しいショートカットを追加して、コマンドに以下を指定する。

```
bash -c "sleep 0.1 && mate-screenshot --area"
```

## ロック画面の壁紙を変更する

そのままでもいいけど、ロック画面の壁紙を変更したい場合は、以下の手順で変更できる

```
vim /usr/share/glib-2.0/schemas/10_mate-rhel.gschema.override
```

[org.mate.background] の picture-filename を変更する

```
# picture-filename='/usr/share/backgrounds/default.xml'  
picture-filename='hoge.jpg'
```

Settings スキーマファイルをコンパイル

```
glib-compile-schemas /usr/share/glib-2.0/schemas/
```

ログオフしてログインし直せば、ロック画面が変わっているはず。

## 注意点

### mozc(ibus) が使えない場合

CentOS 7.4 では問題なかったが、CentOS 7.8 の MATE Desktop で ibus-daemon が自動起動しなくなっていた。

GNOME デスクトップでは自動起動しているので、MATE Desktop の問題と思われる。

#### 対策 1

自動起動するアプリ設定の入力メソッドスターターが以下のようにになっている

```
imsettings-switch -n -q -x
```

xinputrc を探してその中で入力メソッドを確定しようとするが、ibus 利用の判定とならないため、ibus が起動できない。

```
imsettings-switch -n -q ibus
```

に修正し、.bashrc に以下を追加すると ibus を起動できるようになる。

```
export GTK_IM_MODULE=ibus  
export XMODIFIERS=@im=ibus  
export QT_IM_MODULE=ibus
```

#### 対策 2

自動起動するアプリに

```
ibus-daemon -d -x
```

を登録し、~/.bashrc か /etc/environment に

```
export GTK_IM_MODULE=ibus  
export XMODIFIERS=@im=ibus  
export QT_IM_MODULE=ibus
```

を追加すれば、ibus が使えるようになる。自動起動されるようになるまでこれで暫定対応する